

豊田祥子 「道祖神の里めぐりと地域振興—公民館と中学校、地域の人々との連携—」

私の地元である倉渕町は、過疎化が進んでいる。山奥にあるごく普通の田舎町であるこの町だが、「道祖神」というものが町のいたる所に存在している。この道祖神を通じて行われている地域振興「道祖神の里めぐり」を公民館から頂いた資料（運営マニュアル、パンフレット、企画案）と、自分自身が中学生のときに解説ボランティアとして参加したことをもとに余暇領域におけるこのイベントが果たす役割や、地域にもたらす効果について述べていく。

資料によるとこの事業は、旧倉渕村が「国民文化祭ぐんま 2001」に「道祖神フェスティバル」として参加したことを契機にスタートした。2012 年で第 11 回を迎えた。運営は、町職員、中学生、地域ボランティアが一体となって行われている。中学校からの理解も大きなものがあり、学校の「豊かな人間性の育成」という教育目標のもと、ボランティアとして毎回、中学生が参加をしている。過疎化が進み、子どもたちが町を離れていってしまうことが多くなっている今、このような取り組みは、自分が住んでいる町を知り、愛着がわくきっかけになっている。実際、私もこのイベントのボランティアに参加し、自分の町への愛着が増した。大学生になり、地元を離れた今でも、地元のことは大好きである。

そしてこのイベントの注目すべきところは運営方法にあると私は考えている。運営マニュアルによると道祖神の里めぐりへの参加費は無料で、気軽に参加できるようになっている。そして、コースの途中で、地域の人々からの甘酒、なめこ汁のサービスがあり、そこでは、外部から訪れてきた人と、地域の人との間で交流が生まれ、さらに地域の雰囲気を知ってもらうきっかけになる。また、コースの最後には倉渕の特産品を販売するコーナーを設けており、町の良さを思う存分アピールできるようになっている。見学後は、自然に囲まれた青空の下、昼食のおもてなしがある。このようなイベントといえば、参加するのにお金がかかったりする。そうすると気軽に参加できなくなるという風になりがちである。しかし、上で述べたように無料であれば、参加がしやすくなるであろう。

上で述べてきた以上のようなことの結果、1 回参加した人の再来者の割合は約 80%にも及ぶ。また、参加者から中学生へ感謝、お礼の手紙が届き、生徒自身もボランティアをして良かったなあという気持ちになるのである。私も中学 2 年生でこのボランティアに参加した時に「今日の解説楽しかったよ。また来年も来ようかな。」「ありがとう。楽しかったよ。」と言われた時の嬉しさは、今でも覚えている。中学生のときにこのような経験をすることは生徒にとって、とても貴重なものなのではないか。

今現在、このイベントの来場者の年齢層は高いが、いつか若い人々の来場も増えるような企画を行い、倉渕町の良さをアピールしていけたらと私自身思っている。そしてこれからも今までと同じように、公民館、中学校、地域の人々との協力の中で、地域振興を進めていってほしい。